

【甘草】

甘草（かんぞう）は、マメ科の多年草で、ほぼ全量が中国北部の乾燥地帯の野生品です。アジアのみならず、ヨーロッパでも昔から「解毒、消炎作用」をもつ薬物として用いられてきました。また食用としては甘味料、味噌、しょうゆ、さらに嗜好品のタバコにも含まれるなど広く世界的に用いられています。

「甘草が胃かいように効く」という説は、ヨーロッパでも民間薬レベルでいわれていましたが、オランダの Revers によってその薬理作用が科学的に解明され、グリチルリチンの誘導体が合成されました。

このグリチルリチンには、抗アレルギー、抗炎症作用があり、わが国で開発され、広く応用されています。臨床への応用としては、肝疾患への適用が有名ですね。また、甘草からグリチルリチンを除去した成分中に抗体産生抑制物質が含まれていることがわかり、これが Lx と名付けられました。ちょっと話が難しくなりますが、マクロファージを介した免疫担当細胞の産生にストップをかけるとされ、アレルギー疾患へ応用されています。

漢方的には、「急迫ヲ治ス」薬物として理解されています。